

人も地球も健康に

Yakult

株式会社ヤクルト本社

第70期 中間期 **株主通信**

2021年4月1日 ~ 2021年9月30日

掲載内容

- 01 株主の皆さまへ／連結業績ハイライト
- 03 セグメント別業績概況
- 07 第2四半期連結財務諸表等
- 09 特集 ヤクルトの「長期ビジョン」&「中期経営計画」
- 13 会社情報

ごあいさつ



代表取締役社長

成田 裕

平素は格別のご高配を賜り、あつく御礼申し上げます。

ここに、2021年4月1日から2021年9月30日までの経営成績につきまして、連結の業績を中心にご報告申し上げます。

2021年12月

当第2四半期について

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況で推移しました。先行きについては、各種政策の効果もあり、景気、個人消費ともに持ち直しに向かうことが期待されていますが、感染症の動向に十分注意する状況にあります。

このような状況の中で、当社グループは、事業の根幹であるプロバイオティクスの啓発・普及活動を展開し、商品の優位性を訴求してきました。また、販売組織の拡充、新商品の研究開発や生産設備の更新に加え、国際事業や医薬品事業にも積極的に取り組み、業績の向上に努めました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は2,029億円(前年同期比6.6%増)となりました。また利益面においては、営業利益は278億円(前年同期比15.1%増)、経常利益は357億円(前年同期比6.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は255億円(前年同期比17.8%増)となりました。

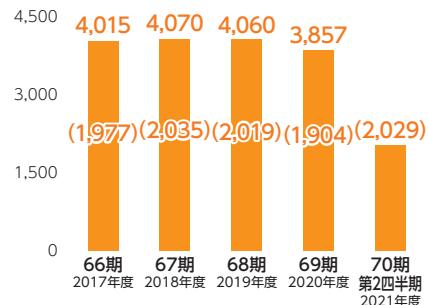


私たちは、生命科学の追究を基盤として、世界の人々の健康で楽しい生活づくりに貢献します。

連結業績ハイライト

●売上高

(億円)



なお、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等の適用により、売上高は36億円減少していますが、利益面への影響はありません。

配当について

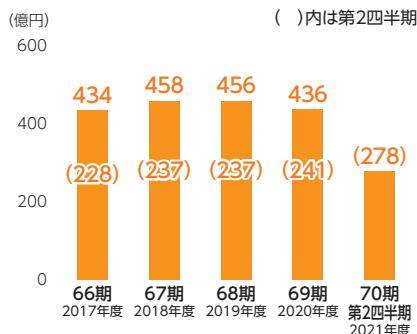
当社は、継続的な増配を目指すことを最優先とし、そのうえで、将来の事業拡大や収益向上を図るための資金需要

および財政状況ならびに当期の業績などを総合的に勘案して配当金額を決定しています。

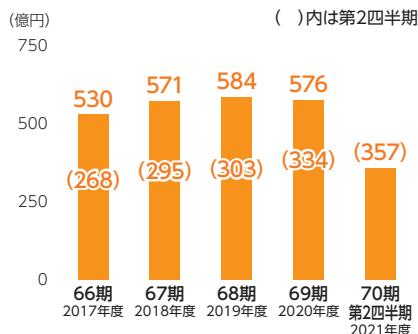
2022年3月期につきましては、配当予想を前期に比べて10円増配の年間62円とすることを公表しておりましたが、上記の基本方針のもと、株主の皆さまに対してより一層の利益還元を図るため、公表金額からさらに10円増配し、年間72円とすることといたしました。中間配当については36円となります。

	当第2四半期連結累計期間	通期の見通し
売上高	2,029 億円 (前年同期比 6.6% 増)	4,125 億円 (前期比 6.9% 増)
営業利益	278 億円 (前年同期比 15.1% 増)	515 億円 (前期比 17.9% 増)
経常利益	357 億円 (前年同期比 6.7% 増)	635 億円 (前期比 10.2% 増)
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	255 億円 (前年同期比 17.8% 増)	430 億円 (前期比 9.5% 増)

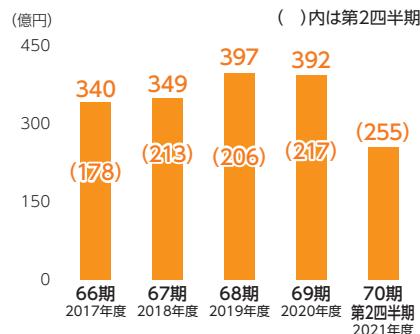
● 営業利益



● 経常利益



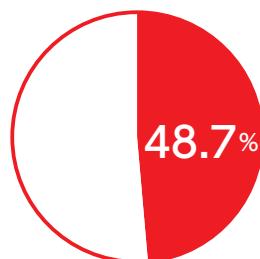
● 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



● Financial Result by Segments

※セグメント別の売上高構成比は、セグメント間売上高の消去前金額に対する構成比です。

飲料および食品製造販売事業部門(日本)



売上高構成比

当第2四半期連結累計期間

売上高

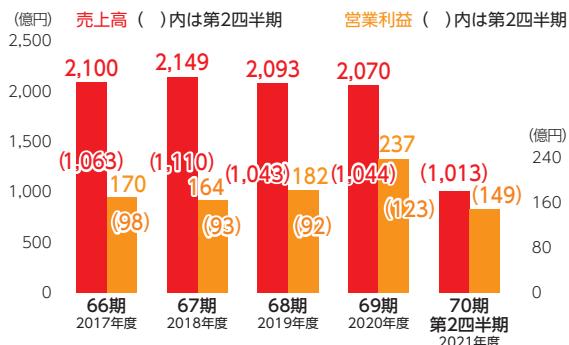
1,013 億円

(前年同期比: 3.0% ↓)

営業利益

149 億円

(前年同期比: 20.8% ↑)



乳製品につきましては、当社独自の「乳酸菌 シロタ株」や「ビフィズス菌 BY株」などの科学性を広く普及するため、新型コロナウイルス感染症の感染防止策を講じたうえで、地域に根ざした「価値普及」活動を広告展開と連動させながら積極的に展開しました。

宅配チャネルにおいては、乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト400W」を含む「ヤクルト400」類および「Yakult(ヤクルト)1000」を中心に、エビデンスを活用し、既存のお客さまへの継続飲用を促進するとともに、インターネット注文サービス「ヤクルト届けてネット」を通じて、新たなお客さまとの接点づくりを強化しました。さらに、宅配組織の強化を図るため、インターネットを活用した採用活動を積極的に展開しました。

店頭チャネルにおいては、乳製品乳酸菌飲料「Newヤクルト」類について、家族での飲用促進を目的とした期間限定パッケージを導入するとともに、映画やドラマとのタイアップ企画を実施することで、売り上

げの増大に努めました。

商品別では、「Yakult(ヤクルト)1000」について、新たにピアニストの辻井伸行さんを起用したテレビCMを放映し、ブランド認知の向上および購買意欲の喚起を図りました。また、「ヤクルト400W」の販売地区を8月から全国に拡大したほか、ハードタイプヨーグルト「ソフル」の期間限定アイテム「ソフル 白桃」を7月に発売し、ブランドの活性化を図りました。

一方、清涼飲料につきましては、栄養ドリンク「タフマン」シリーズの消費者キャンペーンを実施し、売り上げの増大を図りました。

これらの結果、飲料および食品製造販売事業部門(日本)の連結売上高は1,013億円(前年同期比3.0%減)となりました。

なお、収益認識会計基準等の適用により売上高は115億円減少しています。

NEWS & TOPICS 2021

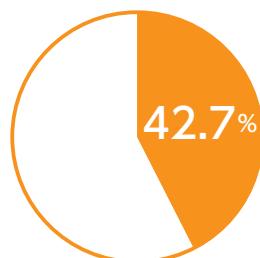
▶ 「Y1000」を全国で発売

2021年10月5日、乳製品乳酸菌飲料「Y1000」を全国で発売しました。「Y1000」は、ヤクルトレディによる訪問販売等で販売している「Yakult(ヤクルト)1000」の店頭向けシリーズ品です。本品は、「Yakult(ヤクルト)1000」と同様に、当社史上最高密度の1ml当たり10億個の生きた「乳酸菌 シロタ株」を含む機能性表示食品で、「乳酸菌 シロタ株」には、一時的な精神的ストレスがかかる状況での、「ストレス緩和」「睡眠の質向上」の機能があることが報告されています。



歌手のMISIAさんが出演する「Y1000」のテレビCMが10月5日からスタートしました。歌や音楽への想い、また日々のプレッシャーと戦いながら、美しい歌声を届ける姿をとおして「Y1000」の価値を訴求しています。

飲料および食品製造販売事業部門(海外)



売上高構成比

当第2四半期連結累計期間

売上高

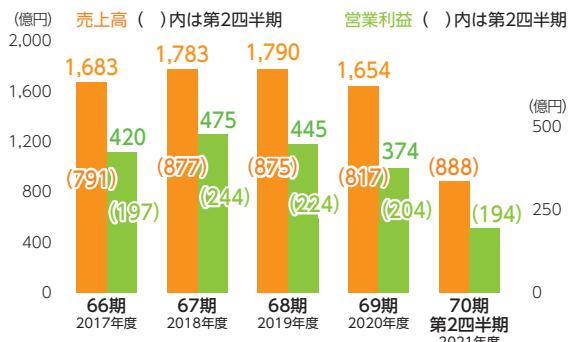
888 億円

(前年同期比: 8.7% ▲)

営業利益

194 億円

(前年同期比: 5.3% ▼)



米州地域

売上高 228億円 (前年同期比: 7.1% ▲)

米州地域においては、ブラジル、メキシコおよび米国で乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」などを製造、販売しています。

同地域では、宅配・店頭のと両チャンネルにおける販売体制強化を図り、売り上げの増大に努めました。

これらの結果、飲料および食品製造販売事業部門(米州地域)の連結売上高は228億円(前年同期比7.1%増)となりました。

アジア・オセアニア地域

売上高 611億円 (前年同期比: 8.9% ▲)

アジア・オセアニア地域においては、香港、シンガポール、インドネシア、オーストラリア、マレーシア、ベトナム、インド、ミャンマーおよび中国などで乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」などを製造、販売し、アラブ首長国連邦(UAE)などでは「ヤクルト」などを輸入販売しています。

中国においては、海南省海口市に海口支店を設立し、店頭チャンネルで乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」および「ヤクルトライト」の販売を8月から開始しました。これにより、中国の販売拠点は50カ所となりました。

ミャンマーにおいては、政情、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を考慮し、営業・生産活動を一時的に見合わせています。

これらの結果、飲料および食品製造販売事業部門(アジア・オセアニア地域)の連結売上高は611億円(前年同期比8.9%増)となりました。

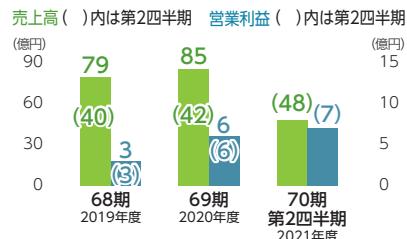
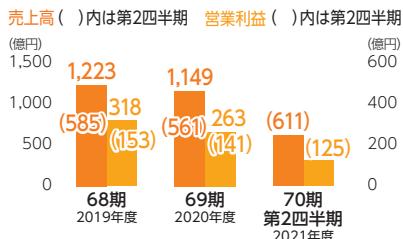
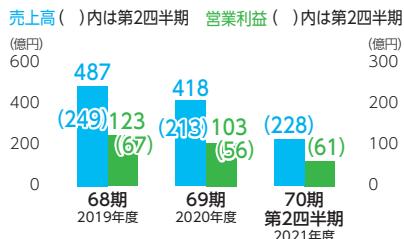
ヨーロッパ地域

売上高 48億円 (前年同期比: 13.3% ▲)

ヨーロッパ地域においては、乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」などをオランダで製造し、同国を含め、ベルギー、イギリス、ドイツ、オーストリアおよびイタリアなどで販売しています。

ヨーロッパにおいては、プロバイオティクスを普及するための活動に対する厳しい規制の中で、健康強調表示(ヘルスクレーム)の承認に向け、各種の取り組みを行っています。このような状況の中、各国事業所による市場特性に合った販売活動の展開により、持続的成長を目指しました。

これらの結果、飲料および食品製造販売事業部門(ヨーロッパ地域)の連結売上高は48億円(前年同期比13.3%増)となりました。



Yakult豆知識 ● その2

「ヤクルト®風味のアイスを食べたい」とのご要望を受け、この夏数量限定で発売したヤクルト初のアイスクリーム「アイス de ヤクルト」ですが、みなさまから大変ご好評をいただき、追加販売もしました。

医薬品製造販売事業部門



売上高構成比

当第2四半期連結累計期間

売上高

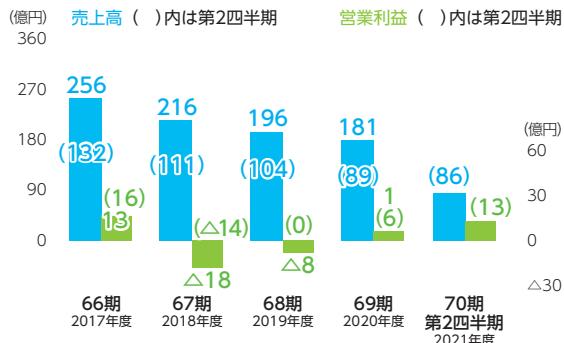
86 億円

(前年同期比: 3.4% ↓)

営業利益

13 億円

(前年同期比: 121.3% ↑)



医薬品につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う医療機関への訪問自粛の対応としてウェブ会議等を活用し、がんおよびその周辺領域に特化した当社製品の啓発活動や適正使用を推奨する活動を推進しました。

行政方針に沿って後発医薬品へ切り替える医療機関が増加傾向にあるものの、当社の主力製品である抗悪性腫瘍剤「エルプラット」については、医療関係者の治療選択肢であり続けるために、先発医薬品を開発した当社の強みである情報提供力を活かした活動を展開しました。また、日本セルヴィエ社とプロモーション契約している抗悪性腫瘍剤「オニバイド®」については、これまでと同様、プロモーション活動を積極的に行い、市場浸透および使用促進を推進しました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、入院や

手術の延期、受診抑制等により当社製品の使用機会が減少したことに加え、4月に実施された薬価改定において大半の当社製品の薬価が引き下げられたことにより、売り上げに影響を受けました。

一方、研究開発においては、セキュラ・バイオ社(米国)から日本における開発および商業化に関する独占的ライセンスを受けているPI3K阻害剤「デュベリシブ」や、4SC社(ドイツ)から導入しているHDAC阻害剤「レスミノスタット」等の開発品目の臨床開発を推進しました。

これらの結果、医薬品製造販売事業部門の連結売上高は86億円(前年同期比3.4%減)となりました。

なお、収益認識会計基準等の適用により売上高は3億円減少しています。

NEWS & TOPICS 2021

▶「ヤクルトCSRレポート2021」および「ヤクルトCSRコミュニケーションブック2021」を公開

当社グループにおける2020年度のCSR活動の実績や課題をまとめた年次報告書として、「ヤクルトCSRレポート2021」と「ヤクルトCSRコミュニケーションブック2021」を公開しました。今年度はCSR活動をESG(E:環境、S:社会、G:ガバナンス)毎に分類して体系的に整理し、国内外のデータ等も盛り込みながら開示情報の充実を図りました。さらに「ヤクルトCSRコミュニケーションブック2021」では、一般消費者の方に広く読んでいただけるよう、イラストや写真を多く用いて事例をわかりやすく紹介しています。



その他事業部門



売上高構成比

当第2四半期連結累計期間

売上高

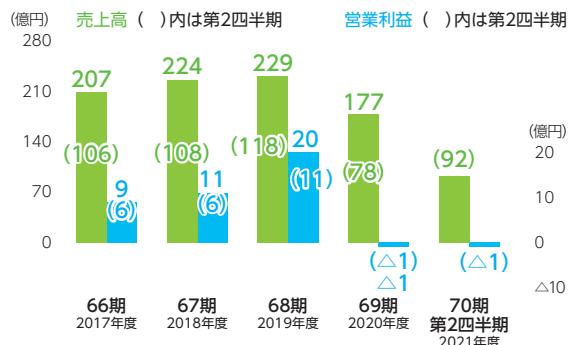
92 億円

(前年同期比：18.4% ↑)

営業利益

△ 1 億円

(前年同期比： - ↑)



その他事業部門には、化粧品の製造販売およびプロ野球興行などがあります。

化粧品につきましては、当社が創業以来培ってきた乳酸菌研究から生まれたオリジナル保湿成分「S.E.(シロタエッセンス)」の「価値普及」活動に重点をおき、お客さまの「内外美容」の実現と化粧品愛用者数の増大に努めました。

具体的には、7月に大人の乾燥肌に向けた高保湿ボディケアシリーズの新ブランド「Coculme(コクルム)」を導入し、ボディシャンプー、ボディシャンプー(つめかえ用)、ボディミルクの3品を発売しました。さらに、9月に化粧品本格販売50周年を記念し、保湿効果の高い基礎化粧品「ラクトデュウ」シリーズから「ラクトデュウS.E.ローション(ミニボトル付き)」を数量限定で発売し、新たなお客さまとの接点拡大および売り上げの増大に努めました。

一方、プロ野球興行につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策として、入場者数を制限したうえでの試合開催を余儀なくされるなど、依然として大きな影響を受けています。今後も、安心して観戦していただける環境づくりと各種ファンサービスを通じて、皆さまの期待に応えるべく対応を図っていきます。

これらの結果、その他事業部門の連結売上高は92億円(前年同期比18.4%増)となりました。

なお、収益認識会計基準等の適用により売上高は3億円減少しています。

▶ 高保湿ボディケアシリーズの新ブランド「Coculme(コクルム)」誕生

「Coculme」シリーズは、たっぷりのうるおいとともに全身をくるむように包み込み、1年中おだやかなお肌で乾燥ストレスのない毎日をとどけたいという想いで誕生しました。フェイスクケアと同様に「やさしく洗うこと」がボディケアのスタートと捉え、洗浄から保湿までトータルケアできるアイテム展開によって、うるおいに満ち溢れた素肌へと導きます。現在、ボディシャンプー、ボディミルク、ボディクリームの3品を販売しています。



第2四半期連結貸借対照表

単位：億円

科目	第69期 2021年3月31日現在	第70期第2四半期 2021年9月30日現在
資産の部		
流動資産	2,668	2,858
固定資産	3,683	3,737
有形固定資産	2,030	2,069
無形固定資産	53	54
投資その他の資産	1,598	1,614
資産合計	6,351	6,596
負債の部		
流動負債	935	821
固定負債	1,017	993
負債合計	1,953	1,815
純資産の部		
株主資本	4,306	4,520
資本金	311	311
資本剰余金	409	411
利益剰余金	4,113	4,327
自己株式	△ 527	△ 529
その他の包括利益累計額	△ 257	△ 130
その他有価証券評価差額金	247	218
為替換算調整勘定	△ 484	△ 330
退職給付に係る調整累計額	△ 20	△ 18
非支配株主持分	348	391
純資産合計	4,397	4,781
負債・純資産合計	6,351	6,596

第2四半期連結損益計算書

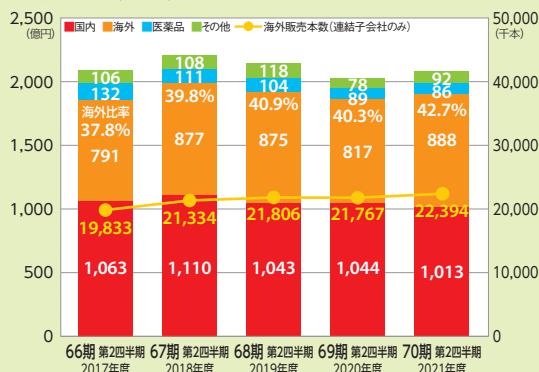
単位：億円

科目	第69期第2四半期累計 2020年4月1日から 2020年9月30日まで	第70期第2四半期累計 2021年4月1日から 2021年9月30日まで
売上高	1,904	2,029
売上原価	772	803
売上総利益	1,131	1,225
販売費及び一般管理費	889	947
営業利益	241	278
営業外収益	99	85
受取利息	21	15
受取配当金	12	10
持分法による投資利益	20	40
為替差益	31	6
その他	13	12
営業外費用	6	6
支払利息	3	3
その他	2	2
経常利益	334	357
特別利益	14	24
投資有価証券売却益	11	11
段階取得に係る差益	—	11
その他	2	0
特別損失	21	10
固定資産売却損	0	9
投資有価証券評価損	7	0
新型コロナウイルス関連費	11	—
その他	2	0
税金等調整前四半期純利益	327	371
法人税等	87	94
四半期純利益	240	276
非支配株主に帰属する四半期純利益	22	21
親会社株主に帰属する四半期純利益	217	255

第70期第2四半期のポイント

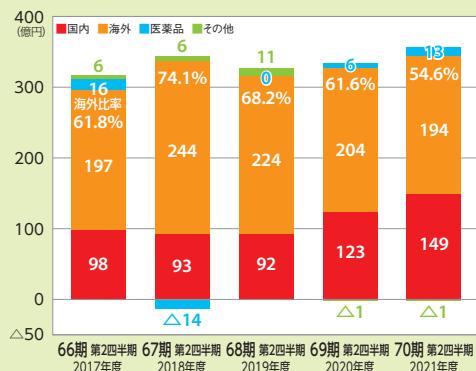
1. 全体(増収・増益)
2. 国内飲料(減収・増益)
 - Yakult1000の全国展開による販売数量増、増益
 - 収益認識基準適用による売上減(生産資機材等)
3. 海外飲料(増収・減益)
 - 販売数量増
 - アジア・オセアニアの経費増
4. 医薬品(減収・増益)
 - 薬価改定の影響等により減収
 - 研究開発費等の減

▶ 売上高推移(連結)



(注) セグメント間売上高の消去前金額で表示しています。

▶ 営業利益推移(連結)



(注) 全社費用等の調整前金額で表示しています。

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

単位:億円

科目	第69期第2四半期累計 2020年4月 1日から 2020年9月30日まで	第70期第2四半期累計 2021年4月 1日から 2021年9月30日まで
① 営業活動によるキャッシュ・フロー	233	303
② 投資活動によるキャッシュ・フロー	45	△ 35
③ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 96	△ 216
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 107	75
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	75	127
現金及び現金同等物の期首残高	1,245	1,227
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,320	1,355

キャッシュ・フローのポイント

- ① 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益が前年同期と比較し43億円増加の371億円となったことに加え、海外向け製造資材を中心とした仕入債務等の支払いが減少したこと等により、前年同期と比較し70億円の増加となりました。その結果、営業活動によるキャッシュ・フローは303億円となりました。
- ② 投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期と比較し固定資産および投資有価証券の売却による収入等が増加したものの、定期預金(期間3か月超)への預け入れが増加したこと等により、支出額が81億円増加しました。その結果、投資活動によるキャッシュ・フローは△35億円となりました。
- ③ 財務活動によるキャッシュ・フローは、主に短期借入金の返済が増加したこと等により、支出額が119億円増加しました。その結果、財務活動によるキャッシュ・フローは△216億円となりました。

★より詳細な財務情報は、当社ホームページの「IR情報」で各種資料がご覧いただけます。

<https://www.yakult.co.jp/company/ir/>

ヤクルト IR情報

検索

長期ビジョン「Yakult Group Global Vision 2030」

ヤクルトグループとしての成長を維持し変化に対応していくための道しるべとして、長期ビジョン「Yakult Group Global Vision 2030」を策定しました。事業活動を通じて、社会の課題解決に取り組むことで、これまで以上にお客さまの期待に応え、企業理念の実現による企業価値向上を図り、持続的成長を目指していきます。

重点テーマ

1 グローバル展開の強化

定性目標

世界の一人でも多くの
人々に健康をお届けする

2 事業領域の拡大

一人ひとりに合わせた
「新しい価値」を
お客さまへ提供する

3 環境課題への対応

人と地球の共生社会を実現する

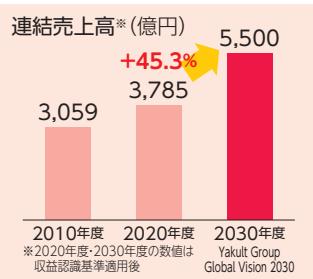
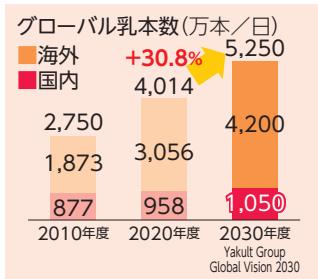
目指す姿

世界の人々の健康に貢献し続けるヘルスケアカンパニーへの進化

長期ビジョン「Yakult Group Global Vision 2030」の詳細▶



定量目標





ここがポイント!!

グローバル展開の強化

進出国に適した新たなビジネスモデルの構築や、ECなど新たなチャネルに対応し、誰もがヤクルトの商品を手に入れやすい環境づくりを進めていきます。

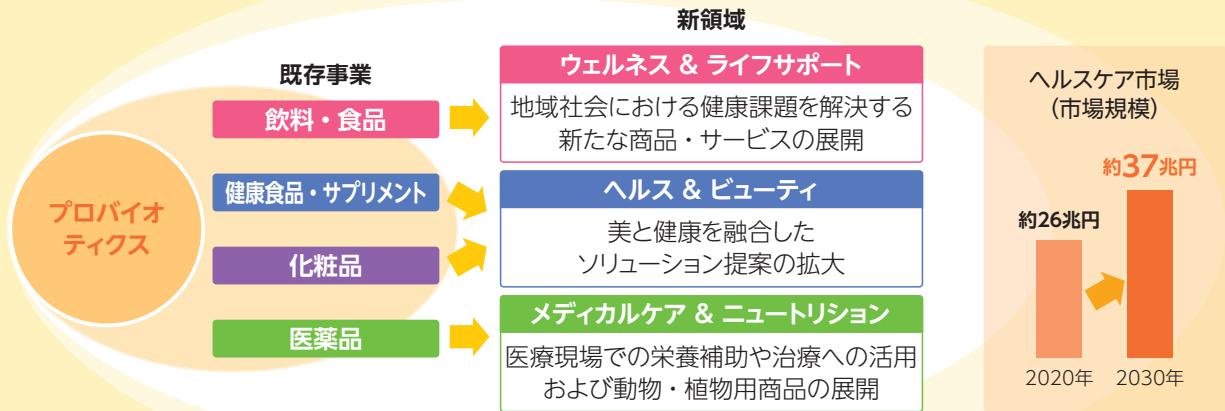


事業領域の拡大

4つの「既存事業」を起点に、新たな3つの「新領域(健康価値領域)」を拡大し、成長が加速する「ヘルスケア市場」において確固たるポジションの構築を目指します。



ここがポイント!!



出典：内閣府 日本再興戦略 (健康寿命延伸産業)

環境課題への対応

「ヤクルトグループ環境ビジョン」を策定し、2050年のあるべき姿として「環境ビジョン2050」を定めました。また2030年度に向けた取り組みとして「環境目標2030」を掲げ、環境対策を推進します。



「ヤクルトグループ環境ビジョン」の詳細 ▶



環境ビジョン2050

「人と地球の共生社会を実現するバリューチェーン環境負荷ゼロ経営」
～温室効果ガス排出量ネットゼロ(スコープ1&2&3)^{*}～

環境目標2030

気候変動	プラスチック容器包装	水
温室効果ガス排出量(国内スコープ1&2)を 2018年度比30%削減 する	プラスチック製容器包装(国内)を 2018年度比30%削減 あるいは 再生可能 にする	水使用量(国内乳製品工場：原単位)を 2018年度比10%削減 する

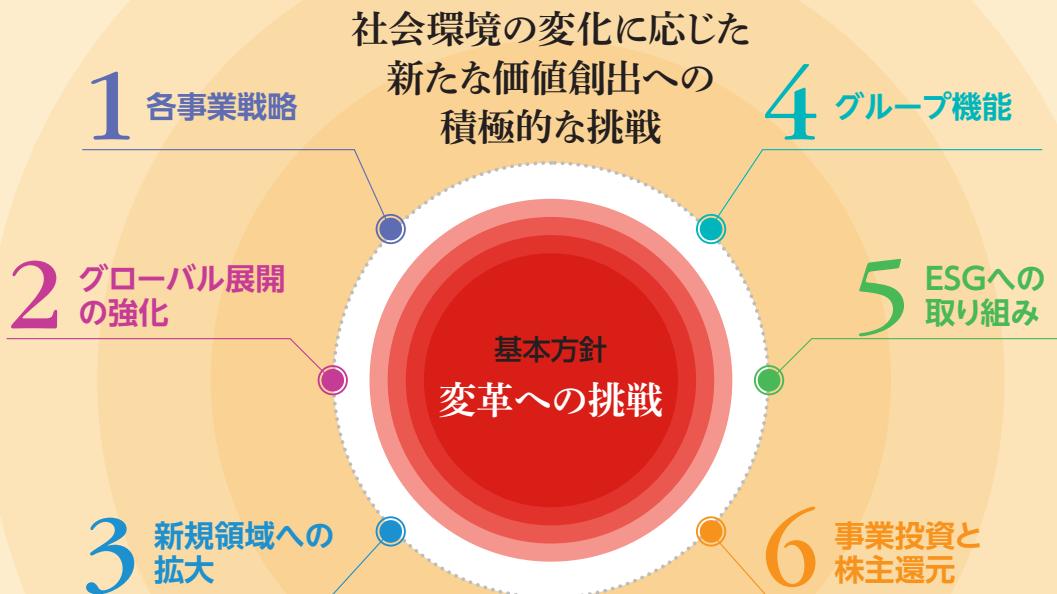
^{*}スコープ：温室効果ガス排出量を把握する範囲



ここがポイント!!

中期経営計画 (2021~2024年度)

長期ビジョン[Yakult Group Global Vision 2030]のうち、2024年度までの4年間における中期経営計画は次のとおりです。



重点テーマ

ここがポイント!!



2 グローバル展開の強化

グローバル乳本数目標

(日本を除く)



3 新規領域への拡大

既存事業

新たなカテゴリの創出



飲料食品事業の
3つ目の柱

定量目標

- グローバル乳本数
- 連結売上高* (億円)
- 連結営業利益 (億円)



*連結売上高は収益認識基準適用後

中期経営計画の詳細▶



1 各事業戦略 お客さまの価値観の多様化に対応した事業の拡大

国内飲料食品

- 商品の高付加価値化
- 顧客接点の拡大
- 地域密着

海外飲料食品

- 既存市場での成長
- 新たな市場創出
- 持続的成長に向けた対応

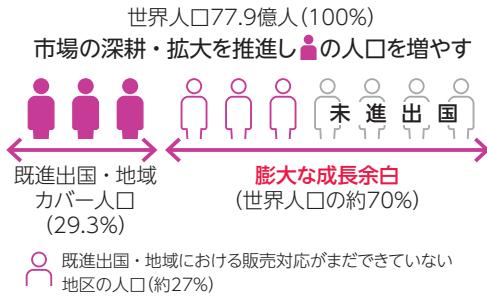
医薬品

- 継続的な開発・上市
- 収益性の向上
- 新規事業の企画・検討

化粧品

- 乳酸菌・発酵を核とした商品・サービスの展開
- 多様化するお客さまニーズへの対応
- 海外など新市場への挑戦

グローバル展開の強化による持続的な成長の実現



ヘルスケアカンパニーの実現を目指した事業領域の拡大

新規事業

「メディカルバイオーム[®]」事業の創造

人々の健康維持や
医療現場での治療に
役立つ
製品の製造・販売

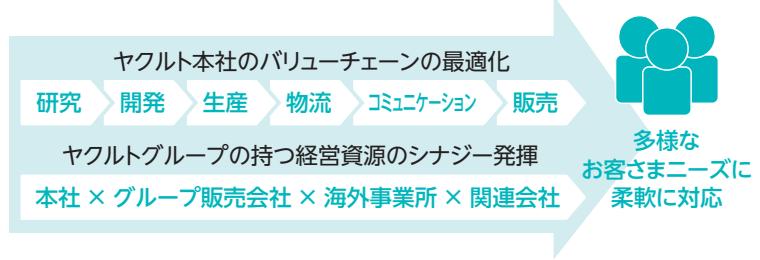


「スーパーシンバイオティクス
LBG-P」

※メディカルバイオーム[®]：
Medical(医療)とMicrobiome(細菌叢)を合わせた造語(商標登録済)

4 グループ機能

グループが保有する経営資源の最適活用



5 ESGへの取り組み

持続的成長に向けた環境課題への取り組み強化



6 事業投資と株主還元

イノベーションを実現するための投資の促進

現在、日本を含む40の国と地域で、
主として乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」の製造・販売を行っており、
世界中で毎日4,000万人を超える方々(2021年3月期実績)にご愛飲いただいています。

【世界の販売本数】



海外：2021年1月～6月の1日当たり平均本数
日本：2021年4月～9月の1日当たり平均本数

EUROPE

▶ 国と地域：13 
▶ 1日当たりの販売本数：71万本

ヨーロッパ地域

- オランダ
- ベルギー
- フランス
- イギリス
- ドイツ
- ルクセンブルク
- スペイン
- アイルランド
- オーストリア
- イタリア
- マルタ
- スイス
- デンマーク

THE AMERICAS

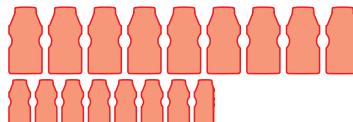
▶ 国と地域：6 
▶ 1日当たりの販売本数：543万本

米州地域

- ブラジル
- メキシコ
- ウルグアイ
- アメリカ
- カナダ
- ベリーズ

JAPAN

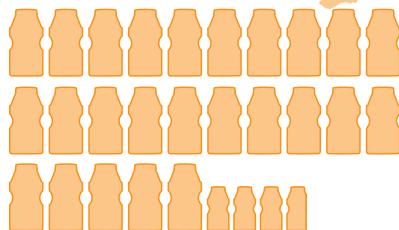
日本 ▶ 1日当たりの販売本数：979万本



ASIA AND OCEANIA

アジア・オセアニア地域

▶ 国と地域：20 
▶ 1日当たりの販売本数：2,539万本



- 台湾
- 香港
- タイ
- 韓国
- フィリピン
- シンガポール
- ブルネイ
- インドネシア
- オーストラリア
- 中国
- マレーシア
- ニュージーランド
- ベトナム
- インド
- アラブ首長国連邦
- オマーン
- バーレーン
- カタール
- クウェート
- ミャンマー

会社概要

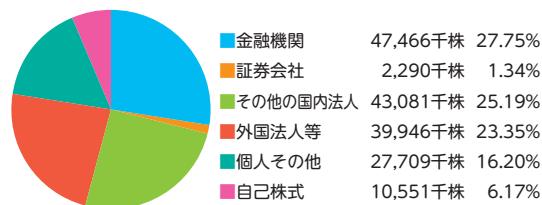
商号	株式会社ヤクルト本社 (Yakult Honsha Co., Ltd.)
設立	1955年4月9日
本店	東京都港区海岸1丁目10番30号
電話	03(6625)8960(大代表)
資本金	311億17百万円
従業員	2,901人

(注) 上記従業員数には、関係会社等への出向者299人および嘱託175人を含んでいます。

株式の状況

発行可能株式総数	700,000,000株
発行済株式総数	171,045,418株
株主数	38,101名

所有者別分布状況



所有株式数別分布状況



役員

代表取締役社長	成田 裕	取締役	平野 宏一	常勤監査役	山上 博資
取締役	若林 宏	取締役	安田 隆二	常勤監査役	川名 秀幸
取締役	石川 文保	取締役	福岡 政行	監査役	谷川 清十郎
取締役	土井 明文	取締役	前田 典人	監査役	手塚 仙夫
取締役	林田 哲哉	取締役	戸部 直子	監査役	町田 恵美
取締役	伊藤 正徳	取締役	新保 克芳		*非常勤
取締役	平野 晋	取締役	永沢 裕美子		
取締役	今田 正男				

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	19,524	11.41
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	9,183	5.37
株式会社フジ・メディア・ホールディングス	6,492	3.80
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口	4,957	2.90
共進会	3,826	2.24
松尚株式会社	3,417	2.00
ステート ストリート バンク ウェスト クライアント トリーティー 505234	2,109	1.23
ジェーピー モルガン チェース バンク 385781	1,753	1.03
日本生命保険相互会社	1,696	0.99
MSCO CUSTOMER SECURITIES	1,672	0.98

(注) 共進会は、当社の取引先であるヤクルト販売会社を会員とする持株会です。
上表のほか、当社は自己株式10,551千株を保有しています。

ホームページのご紹介

当社のホームページでは、会社情報、IR情報、商品情報、CSR活動などさまざまな最新情報を掲載しております。特に株主・投資家の皆さまに向けましては、トップメッセージ、決算短信、有価証券報告書のほかIRニュースなども掲載しております。ぜひご覧ください。



<https://www.yakult.co.jp/>

株主優待

毎年3月31日現在で100株以上ご所有の株主さま
当社商品詰め合わせを贈呈

※1,000株以上ご所有の株主さまは商品内容が異なります。
※ご所有期間3年以上の株主さまは「化粧品」を追加で贈呈します。

※商品発送は6月上旬の予定です。

毎年9月30日現在で100株以上ご所有の株主さま
東京ヤクルトスワローズオフィシャルファンクラブ
(スワローズブルー)にご入会いただける権利を
ご提供

※ご所有株数によってご入会いただける会員種別が異なります。

※入会についてのご案内は、本誌と同封しております。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
株主総会	定時株主総会 毎年6月中 臨時株主総会 必要に応じ随時
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日

公告掲載方法 電子公告 <https://www.yakult.co.jp/>
ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人 東京証券代行株式会社

事務取扱場所 〒101-0054
東京都千代田区神田錦町三丁目11番地
(NMF竹橋ビル6F)

(郵便物送付先)
(連絡先) 〒168-8522
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
東京証券代行株式会社 事務センター
☎0120-49-7009

株式に関するお手続きについて

1. 未支払配当金のお支払い
株主名簿管理人である東京証券代行株式会社にお申し出ください。
2. 住所変更、単元未満株式の買取請求、配当金受取方法の指定など
お取引の証券会社等にお申し出ください。なお、特別口座に記録された株式の手続き(証券会社に開設した口座への振替など)に関しましては、すべて当社の特別口座管理機関である東京証券代行株式会社にお問い合わせください。

Yakult

株式会社ヤクルト本社

証券コード2267

東京都港区海岸1丁目10番30号

TEL : 03-6625-8960(大代表)

<https://www.yakult.co.jp/>

